

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 2 月 2 0 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103957		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホーム もえぎ（ふたばユニット）		
所在地	広島県広島市安芸区船越南二丁目20-16 (電話) 082-821-2261		
自己評価作成日	令和3年12月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103957-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年2月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、各入居者の心に寄り添うケアになるように努めている。個々人それぞれにケア内容は違い、一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え、もえぎが入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。買物等、外に出て行くようにし、家族や知人、ボランティアの方々の訪問を積極的に受け入れ、閉鎖的にならないように努めている。また、家族会との合同行事を年に5回行い、ご家族との信頼関係を築いている。職場体験や専門学校、介護職員初任者研修の実習施設として、地域に開かれたホームになるように努めている。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染防止の為、外出は数回、家族との合同行事は出来ていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。コロナ禍による面会制限がある中、相談室での10分間面会、リモート面会や敬老会に向けた家族からのお祝いビデオレター等、「笑顔と温もり」に寄り添った支援をしている。第二に「理念の共有と実践」に深化が見られる。事業所は毎月の職員全体会議で理念を振り返り、達成に向けてユニット年間目標を策定、年度末での検証と共に職員も個人目標を設定し年3回の個人面談にて検証している。第三に「運営推進会議を活かした取組み」に深化が見られる。会議では家族代表、住職・スーパー店長・地域女性会会長他の多様な地域住民の参加で多職種連携を図り、参加できない家族には議事録を送ったり、議事録（開催報告書）をブログで公開する等、透明性の高い情報発信に繋げている。

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様にしてしている。茶話会で対応が難しい時は、理念を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するよう努めている。名刺大の三つ折り帯カードに理念を書いて全職員に配りいつでも確認できるようにしている。	職員は基本理念が明記された必携カードで理念を共有し、実践上の立ち返るべき原点として捉えている。毎月の職員全体会議での振り返りや達成に向けてユニット年間目標を策定し、年度末に検証している。職員も個人目標を設定し、年3回の個人面談にて達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス禍で、お祭りやイベントが中止になり地域の方々との交流が出来なくなった。近所のスーパーへの買い物も感染防止の為、出掛けている。	現在はコロナ禍により外出は自粛中だが、本来は日頃から散歩や買い物、地域行事等にも参加している。運営推進会議に地域住民の参加や話し相手ボランティアの受け入れ等、相互交流もあった。又、認知症のキッズサポーター養成講座等を通じた地域の子供達との世代間交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらおう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	女性会の会長やスーパーの店長・お寺の住職など地域の方を増やし、ニヶ月に一回、状況報告を行い、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。	会議はコロナ禍のため直近6回の殆どは家族代表、住職・スーパー店長・地域女性会会長他の地域住民、地域包括支援センター職員等の参加予定者に対する事前照会となり、その他の家族には議事録を送り情報共有している。参加者の助言により防犯カメラの設置に繋がった例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者の困りごとを相談に行くなど協力関係を築いている。	地域包括支援センターとは運営推進会議や事前照会(配布の会議資料)で運営情報を共有し、会議の開催報告書は区担当課に持参している。区担当者とは日頃から相談・報告や行政主催のオンライン研修へ参加したり、生活保護に関しても生活課職員の定期的な訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないように努めている。</p>	<p>研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。運営推進会議と連動して適正化委員会を開き定期的な検証のもと、運営推進会議で拘束例はない旨を公開している。赤外線離床センサー等を夜間設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。また、虐待の研修に行き全体会議で、全職員に伝えると共にユニット会議でも虐待について研修を行っているが、入居者の身体に傷や青あざ見つけた時はインシデントに記入し直ぐ上司に報告をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。令和元年7月の家族会の中でご家族から「もえぎのインシデントの数が少ないのは何故か？」という質問が出たので、ユニット会議で安全対策委員会が研修を行い職員全員でインシデントについて話しあった結果、たくさん報告されるようになった。</p>	<p>利用者の要望は日々の会話を通じて把握し、家族とは電話連絡、面会時、運営推進会議、年に数回の家族会(コロナ前)、外部評価がない年に家族アンケート、意見箱等で把握して迅速な対応に努めている。家族からの要望で利用者が見やすい大型テレビを導入した経緯もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に3回個別に面談を行って意見や提案を聴いている。平成29年度から職員全員にアンケートを行い、様々な意見を吸い上げている。また、コミュニケーションチーム・安全対策・人材育成チームで活動を行い、職員の意見が反映される様に取り組んでいる。	毎月の全体会議・ユニット会議・人材育成チーム等の各種委員会、管理者他との年3回又は随時の個別面談、職員アンケート等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職員目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。アンケートから残業削減に繋がった経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。研修においては会社が1万円までの補助を行い学機会を増やしている。平成29年度からコミュニケーションチームが中心となり他事業所との交流を図りやりがいを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社が1万円の補助を出して職員が行きたい研修に参加出来るようにしている。外部からの講師を招いてオムツの当て方や緊急時の対応についての研修を行っている。主任が講師となり、勉強会を行い認知症高齢者への対応、安全な介護、高齢者虐待にそって学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オンラインによる、船越地域の薬剤師や民生委員等との交流会に参加して、テーマに沿って意見交換会を行っている。また、グループホームもえぎ野の職員と相互交流会を企画している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。お聞きした内容について、入居前に職員全員で話し合いを行い希望を取り入れたら不安がないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらっている。食器拭き洗濯物たたみ、新聞折など入居者の方々が無理なく今できることを、スタッフが声をかけ一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の為、自由に面会が出来なくなったが、短時間での面会やリモートでの面会などを活用して、出来る限り家族とのつながりを持っている。敬老会ではビデオレターにして入居者の皆様に観て頂いた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為面会が制限されて友人や知人との面会は出来なくなった。	コロナ禍による面会制限の中、最近では相談室での10分間面会、リモート面会や敬老会に向けた家族からのお祝いビデオレター、感染を避けた馴染みの美容院の利用、年賀状・電話を介した会話の取り次ぎ等、利用者・家族の気持ちに寄り添った関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関わりを持てるように、職員が中に入り支援をしている。また、新しく入居された方がみんなの中に溶け込めるように、職員がレクリエーションや体操の時間に良く声をかけている。ホットプレートを活用し、入居者同士が協力をして、お手伝い出来るように職員が声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。年賀状などでつながりを継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。普段の生活の中でご本人が話された内容(食べ物好みや趣味、ペット、好きな歌など)をケースに記録している。	利用者毎に担当を決め、利用者の習慣や好み等の基本情報をもとに、その後はその方に深く関わりを持つことで思いを汲み取り、職員はそれをケース記録等で共有をしている。意思の表出は困難だが、職員と出来る事を探る中で食器拭きやタオル畳みの役割作りに繋がった例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、入浴の際、リラックスされた時にふと、昔の思い出や子供のころの話がされる事があるので、ケースに書き留めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来よう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。寝不足や体調不良の方がおられたら、早目に休んで頂くよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようにアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>	<p>利用者毎の担当職員の情報をもとに計画作成担当者が立案し適宜担当者会議で検討して家族の同意のもと、本案としている。3ヶ月を基本に担当職員・各ユニットでモニタリング、計画を見直している。足のむくみ軽減に朝夕の足踏みを立案化し、利用者から運動の催促が出るまでになった。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録用紙があり、入居者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、業務の申し送りを行い情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。入居者から何かしらの要望があった時はきちんと話を聞き管理者へ報告、必要ならばご家族へ連絡をとって本人が安心されるように素早く対応をしている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>月1回の音楽会や法話は新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となったまま。全国の介護施設に向けての無料ライブ配信に申し込み9月22日に吉本のオール巨人氏によるコンサートを大型スクリーンで観て頂いた。入居者は一緒に歌を唄い楽しいトークに大笑いをされていた。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応を下さる。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、大部分の利用者は協力医を主治医としている。協力医から週1回の訪問診療もある。協力歯科医・専門医の受診は主に事業所により行なわれている。常勤兼務の看護師の配置もあり、利用者の健康管理を始め適切な医療を受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間で退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交え対応方針を話し合い共有化を図っている。フロア会議でスタッフも対応方針を考え日々不安に思っていることや疑問点などを話し合っている。	要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に重度化・看取り指針にて基本的な方針を説明し了承を得ている。過去に数件の看取りもある。事後に活かすべく反省会や家族アンケートでの振り返りを行っている。ユニット会議での研修や外部研修で看取り力の強化に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行っている。12月に外部講師を招いて緊急時の対応についての研修を行う予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。3月に4事業所全体で風水害を想定しての避難訓練を計画していたがコロナの為に中止となった。	消防署の立ち合いも含め、建物内の他事業所と合同で年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議の出席者も参加し減災協力体制への連携に努めている。ハザードマップでは浸水想定区域であり、災害に備え避難場所の確保や非常食・飲料水等、1週間分の備蓄整備もなされている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者ひとり一人が、笑顔になるような言葉かけを心がけている。拒否的な言葉は使わないように気を付けている。出来る限り本人の思いを受け止めるようにしている。対応が難しい時は時間をおいたり介助者交代をすることで本人の気持ちの切り替えや安心感につながりようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者の呼称等も利用者の納得を得られる対応に努め、不適切な対応にはその場で注意し気づきを促している。申し送り・ユニット会議・全体会議で対応の波長合わせを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の発言をよく聴き、出来るだけ本人の希望に沿った生活が出来るように心がけている。自分の思いを表現するのが難しい入居者に対しては、表情や体調をみて職員間で話し合い、納得した生活を送って頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の意見を聴き、出来るだけ本人のペースに合った生活が出来るように対応している。意思表示の難しい方に対しては本人の状態や表情を読み取り、出来るだけ希望に添えるように努めている。「何かお手伝いをしたい」と言われた時は「やりたい」という意欲を失わないように直ぐに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、服を着替える時は、出来るだけ本人にお聞きして、服を選んでいる。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。朝の整容の時に髪の設定に気をつけている。外出行事やホーム内での行事がある時は帽子やスカーフをアレンジして華やかな装いになるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホットプレートを活用して、入居者と職員と一緒に調理を行っている。また、食事前のテーブル拭きや食後には食器拭きを行って頂いている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し職員による三食手作りである。誕生日には好みの物を提供し、パン屋で喫茶、ホットプレートでおやつ作り、干し柿作り等、楽しみとなる工夫もある。手作りの二段テーブル等、食事環境にも配慮し、利用者は食器拭き等、役割をもっている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。水分摂取の少ない入居者には、こまめに飲んで頂く様にしている。栄養バランスのよい食事になるように心がけている。入居者の体重測定を月に1回行っている。摂取量が減っている方には、ご飯やおかずの量を調整して本人が無理なく食べられるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声かけを行い、困難な方には状態に合わせて職員が介助している。一人ひとりに合った歯ブラシを選んで使用している。また、うがいが出来ない方にはスポンジブラシを使用して口腔ケアを行っている。義歯を外した時、不具合がないかチェックを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿、排便チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように努めている。オムツ・パッドの当て方の研修を受け、入居者一人一人に合った、リハビリパンツ・尿取りパッドを検討している。</p>	<p>排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。排泄時の足台設置やその方に適したパンツ・パッド導入等、状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、床センサー・マット等を設置している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘にならないように、出来るだけ水分を多く摂る様に心がけている。野菜を多くメニューに取り入れている。リハビリ体操や夕方のレクリエーションに参加してもらい、身体を動かすように声を掛けている。毎食後トイレ誘導を必ず行っている。トイレの訴えやサインがみられたら直ぐにトイレ誘導を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調に合わせて無理強いはせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯などもしている。</p>	<p>隔日の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴で対応することもある。浴槽内に浴槽台で仕切りを作り、安全な入浴姿勢への配慮や冬至の柚子湯・湯上りの保湿剤等の対応もある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	その時々 の状況に 応じて、 ベッド で休ん だり、 フロア でも休 めるよ うにソ ファを 置き、 何処で も休ん で頂け るよう にして いる。 冬は居 室に加 湿器を 入れて 乾燥し ない様 に気を つけて いる。 よく汗 をかく 方に対 しては 、こま めに着 替えを 行ったり 、寝具 を薄い 物に変 えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている。	一人ひとりの個人ケースに薬の内容や 副作用の説明書を閉じている。また、 入居者全員の薬の説明書をファイルし て、書棚に保管し、すぐに確認出来 るようにしている。2人の職員で必ず服 薬前のダブルチェックを行い、誤薬が ないように気を付けている。薬の副作 用などの細かいところの把握は出来て いない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせ るように、一人ひとりの生活歴や力 を活かした役割、嗜好品、楽しみご と、気分転換等の支援をしている。	食器洗いや洗濯物干し、洗濯物たた み、おかずの盛り付け、調理の下ごし らえ、掃除など役割を持って頂いてい る。季節の行事や誕生日会等、カレン ダーに書いており、楽しみが共有出来 るよう努めている。職員が新聞記事の 中から入居者が興味をもっておられ る内容を伝えたり、一緒に会話するよ う心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援してい る。	今年度も新型コロナウイルス感染拡大 防止の観点から入居者との買い物は中 止している。10月と11月に3密を避けて 短時間で出かけた。	コロナ禍で外出は当面の間自粛をして いるが、感染状況に注意して近くのパ ン屋で喫茶を楽しんだり、馴染みの理 美容院を利用している。又、昨秋には 短時間ながらユニット毎に公園へのド ライブ等、普段は行けないような場所 で「非日常」を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希 望や力に応じて、お金を所持した り使えるように支援している。	買い物の時は、職員が代行することが 多い。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に応じ、電話で自由に話が出来るようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙・はがきが届いた時はご本人へ手渡している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。整理整頓に心がけ unnecessaryなものは置かないようにしている。また、ソファを増やし皆がゆったり過ごせるようになっている。トイレに小型の暖房ヒーターを置いて入居者が寒くないようにしている。</p>	<p>ベランダで季節の花を育てたり、正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいが感じられるよう配慮している。朝食・夕食の匂い等も居心地の良い生活空間となっている。又、マスコット犬と戯れる風景も癒しの空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができるよう、配置も心かけている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使い慣れた生活用品や衣類、家具、アルバム等持ち込んで頂いている。タンスの上に家族の写真、家族からの手作りメッセージカードや毎月入居者が参加された行事の写真カレンダーを飾っている。</p>	<p>居室入口に表札を張り分かりやすくしている。居室にはベッド・クローゼット等が備え付けられ、仏壇等、使い慣れた物や自作の瓢箪等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。整理ダンスの配置換えやベッドから入口まで手すりを設置して安全な導線確保に留意している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者一人ひとりの出来る力を把握して、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、出来ない事を毎日の声かけや対応で手助けをし、自立した生活が過ごせるようにしている。今、出来ていることを継続できるように声掛けを行っている。</p>		

V アウトカム項目（ ふたばユニット ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様になっている。茶話会で対応が難しい時は、理念を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するように努めている。名刺大の三つ折り携帯カードに理念を書いて全職員に配りいつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス禍で、お祭りやイベントが中止になり地域の方々との交流が出来なくなった。近所のスーパーへの買い物も感染防止の為、出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	女性会の会長やスーパーの店長・お寺の住職など地域の方を増やし、ニヶ月に一回、状況報告を行い、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	入居者の困りごとを相談に行くなど協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。また、虐待の研修に行き全体会議で、全職員に伝えると共にユニット会議でも虐待について研修を行っているが、入居者の身体に傷や青あざ見つけた時はインシデントに記入し直ぐ上司に報告をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。実際に2名の入居者が「かけはし」を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。令和元年7月の家族会の中でご家族から「もえぎのインシデントの数が少ないのは何故か？」という質問が出たので、ユニット会議で安全対策委員会が研修を行い職員全員でインシデントについて話しあった結果、たくさん報告されるようになった。		

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に3回個別に面談を行って意見や提案を聴いている。平成29年度から職員全員にアンケートを行い、様々な意見を吸い上げている。また、コミュニケーションチーム・安全対策・人材育成チームで活動を行い、職員の意見が反映される様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。研修においては会社が1万円までの補助を行い学機会を増やしている。平成29年度からコミュニケーションチームが中心となり他事業所との交流を図りやりがいをもち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社が1万円の補助を出して職員が行きたい研修に参加出来るようにしている。外部からの講師を招いてオムツの当て方や緊急時の対応についての研修を行っている。主任が講師となり、勉強会を行い認知症高齢者への対応、安全な介護、高齢者虐待にそって学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オンラインによる、船越地域の薬剤師や民生委員等との交流会に参加して、テーマに沿って意見交換会を行っている。また、グループホームもえぎ野の職員と相互交流会を企画している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。お聞きした内容について、入居前に職員全員で話し合いを行い希望を取り入れたり不安がないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらっている。食器拭き洗濯物たたみ、新聞折など入居者の方々が無理なく今できることを、スタッフが声をかけ一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の為、自由に面会が出来なくなったが、短時間での面会やリモートでの面会などを活用して、出来る限り家族とのつながりを持っている。敬老会ではビデオレターにして入居者の皆様に観て頂いた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為面会が制限されて友人や知人との面会は出来なくなった。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関わりを持てるように、食事のテーブル席の配置やソファの座る位置を工夫している。しかし、入居者同士のトラブルも多くなっているのもっと積極的に関わるように努める。毎日、全員参加出来るようなレクリエーションを行い、関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。年賀状などでつながりを継続している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。普段の生活の中でご本人が話された内容(食への好みや趣味、ベッド、好きな歌など)をケースに記録している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、入浴の際、リラックスされた時にふと、昔の思い出や子供のころの話がさされる事があるので、入浴担当の職員が聴き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。家族が面会に来られた時に、これまでの暮らしについて聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙があり、利用者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。体調や日々の様子などを、少しでも変化がある時には、申し送りや張り紙をして情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。入居者から何かしらの要望があった時はきちんと話を聞き管理者へ報告、必要ならばご家族へ連絡をとって本人が安心されるように素早く対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回の音楽会や法話は新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となったまま。全国の介護施設に向けての無料ライブ配信に申し込み9月22日に吉本のオール巨人氏によるコンサートを大型スクリーンで観て頂いた。入居者は一緒に歌を唄い楽しいトークに大笑いをされていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応を下さる。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交えて対応方針を話し合い共有化を図っている。フロア会議でスタッフも対応方針を考え日々不安に思っていることや疑問点などを話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行い、11月の全体会議で新しいAEDの研修会があり人体模型を使用して胸骨圧迫の実習を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。3月に初めて4事業所全体で風水害を想定しての避難訓練を行った。		

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を個々に行っており、スタッフ間で声掛けを行い、なるべく統一を図っている。乱雑な声掛けにならないように、職員全体で声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、表情や会話の中で自己決定やその人らしい希望や願いを、意図的に引き出すように努めている。レクリエーションやお手伝いなど、自己決定が出来るような、働きかけをしている。普段の会話の中で、願いや不安など話し合える関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のリズムに配慮をしながら、生活歴の中で得意なこと、好きなことを、日々の生活の中でしてもらい、その人らしく暮らせるよう努めているが職員のペースになっていることがある。出来る限り本人のしたいことや出来ることをして頂くように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、服を着替える時は、出来るだけ本人にお聞きして、服を選んでいく。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。朝の整容の時に髪の毛のセットに気をつけている。外出行事やホーム内での行事がある時は帽子やスカーフをアレンジして華やかな装いになるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホットプレートを活用して、入居者と職員と一緒に調理を行っている。また、食事前のテーブル拭きや食後には食器拭きを行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。身体レベルに合わせて調理方法を工夫し、見た目にも色彩が綺麗で食欲がわく様な盛り付けを心がけている。水分がすすまない方には、ゼリーなどで対応をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけを行い困難な場合は、ゼスチャー等を交えながら、状況に合わせて支援している。また、ハミンググット、ガーゼ等を使用し個々に合った対応をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排便・排尿チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、可能な限りトイレでの排泄に向けた、支援をおこなっている。可能な限り、布パンツを使用して頂いているが、パッドの当て方などで失敗をする事がある。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘気味の方には自然排便が出来るように水分摂取やフロア内を歩くなど運動にも心掛けている。また、バナナ牛乳や繊維質のものを食事にとり入れている。職員間で良い情報を取り入れ話し合い、排尿・排便時足台を置くなど色々工夫をしてスムーズな排尿・排便を心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調に合わせて無理強いはせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯などもしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>その時々状況に応じて、ベッドで休んだり、フロアでも休めるようにソファを置き、何処でも休んで頂けるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの個人ケースに薬の内容や副作用の説明書を閉じている。2人の職員で必ず服薬前のダブルチェックを行い、誤薬がないように気を付けている。また、薬の拒否がある入居者に対しては職員が交代するなどして対応している。薬の副作用などの細かいところの把握は出来ていない。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>日々の生活の中で個々に役割を持ってもらい、犬の世話や塗り絵、散歩や行事、買い物など気晴らしが出来るよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入居者との買い物は中止している。10月と11月に3密を避けて短時間で出かけた。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物の時は、職員が代行することが多いが、出来る限りお金を支払う機会をつくる努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙・はがきが届いた時はご本人に手渡すようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。また、毎月、季節感が出る貼り絵を壁に貼っている。お手伝いができる入居者が少なくなったが新しい壁飾りが出来るととても喜んで下さる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるようにしている。また、昔話をして自分らしく過ごしておられる。お花や写真を飾ると入居者も喜んでおられる。担当職員が居室の整理整頓、季節毎の衣類の入れ替えなどを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの出来る力を把握して、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、今、出来ていることを継続できるようにしている。職員間で意見交換を行い声掛けの統一や介助の方法の研修や話し合いを行い、入居者の出来ることを一つでも増やせるように心がけている。		

V アウトカム項目(みつばユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ

作成日 令和4年3月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	新型コロナウイルス感染防止の為に面会が自由に出来なくなった。	ご入居者の様子を今以上に具体的に伝える。	毎月のご家族への手紙に行事の事だけではなく日常の中の小さな変化についても書く。	令和4年4月1日～令和5年3月31日
2	49	新型コロナウイルス感染防止の為に自由に外出が出来なくなった。	ご入居者と楽しく過ごす。	その月の行事担当者がおやつ作り・ゲーム・散歩等計画を立てて実施する。	令和4年4月1日～令和5年3月31日
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。